

環境から始める SDGs取組のすすめ

一般社団法人 埼玉県建設業協会版



埼玉県 環境部

埼玉県の支援制度 【埼玉県環境SDGs取組宣言企業制度】



「埼玉県環境SDGs取組宣言企業制度」は、企業や団体が行う、環境分野のSDGsの取組を応援する制度です。

宣言をした企業や団体の取組を発信し、皆様の取組を支援します。

- ・対象
埼玉県内に本社又は支社等を有し、県内において事業活動を行う企業、法人、団体、個人事業主
- ・宣言企業のメリット
 - ✓ 宣言いただくと県から「宣言証」を発行します。受付や事業所等でのPRに是非、御活用ください。
 - ✓ 県建設工事の入札参加資格の格付加点（5点）があります。
 - ✓ メールマガジンで環境関連の補助金やイベント・企業募集等の情報を得られます。
 - ✓ 県ホームページ等でSDGsの取組がPRできます。
 - ✓ 先行事例の情報収集や企業等のネットワークづくりができます。
 - ✓ 取組のPRで企業イメージが向上し、多様な人材の確保につながります。
 - ✓ ビジネスの取引条件に対応できます。
 - ✓ 社会的な課題への対応により自社の取組が深まります。

【手続きについて】

自社の取組と環境SDGsを関連付けてみましょう

- ステップ 1 宣言書の提出
はじめに、取組宣言企業となるための「宣言書」を御提出ください。
宣言後、県ホームページに企業等の名称、取組項目等を掲載します。

環境SDGsの取組を更に進め、継続しましょう

- ステップ 2 取組報告書の提出
以降、原則1年ごとに進捗状況を確認し、「取組報告書」を御提出ください。
取組報告書を県ホームページで発信し、取組をPRします。

お問合せ：埼玉県環境部環境政策課
(電話：048-830-3041 メール：a3010-11@pref.saitama.lg.jp)

A screenshot of the 'Saitama Prefecture Environmental SDGs Commitment Declaration Form'. The form is titled '埼玉県環境SDGs取組宣言書' and includes fields for company name, address, and contact information. There are two blue callout boxes with white text. The first callout box says '宣言書は、取り組む項目に5つまで丸を御記入ください。' (The declaration form is for you to mark 5 items you are committed to with circles). The second callout box says '取組報告書は、環境分野に関連させて内容を御記載ください。' (The activity report is for you to describe the content related to the environment field). The form also has a section for '取組項目' (Activity Items) with a grid of checkboxes and a section for '取組内容' (Activity Content) with a text area.

CONTENTS

- SDGs活動を目指して 3
- SDGsとは 4
- SDGsは私たちに関係するのか？ .. 5
- ここから始める環境SDGs活動
..... 6
- 建設業界の
環境SDGs活動のヒント
..... 8
- 取組事例
 - 初雁興業株式会社 10
 - 柏木建設株式会社 12



SDGs活動を目指して

埼玉県建設業協会は、建設業法の制定を契機に、昭和25年に県内の建設業界の結束を目的として結成されました。その後の社会変化に伴い、昭和31年に社団法人化して、今日に至っております。

法人化した頃は高度経済成長期であり、人々の暮らしを豊かにするためにインフラ整備や大規模建築が急ピッチで進む中、環境に対する配慮がおろそかになり、公害等諸問題が発生しましたが、昭和40年代半ばには様々な環境関連法令が制定され、経済成長には環境対策も重要という機運が高まりました。また、平成14年には土壌汚染対策法が、国民の安心と安全の確保、生活環境の保全を図ることを目的として制定されると共に、多くの会員企業がISO14001を取得するなど環境対策に意欲的になりました。環境に大きな影響を及ぼす建設業に携わる私たちは、環境に対し目標を持ち、環境に配慮したものづくりに努めていかなければなりません。

平成27年にSDGsが国連サミットで採択されて以降、日本でも経営への導入が加速し、多くの企業が取組を進める中、当協会としても持続可能な社会の構築に向け大きな責任を担っていると改めて認識し、令和元年度にSDGs委員会を発足させ尽力してまいりました。その取組のひとつとして、令和5年10月に協会自らが『埼玉県環境SDGs取組宣言』を行いました。この宣言が、会員企業の皆様が取組を進める上での指標となれば幸いです。

私たち建設業は、「安心安全な社会」「持続可能な社会」「誰一人取り残さない社会」に寄与することができます。これらの社会の実現に向け、協会全体で更なるSDGsを推進いたしたく、埼玉県環境部様並びに一般社団法人埼玉県中小企業診断協会様と本冊子を作成いたしました。

本冊子により建設業のSDGsに対するご理解を一層深めていただければ幸いです。

一般社団法人 埼玉県建設業協会 SDGs委員会

SDGsとは

SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない」より良い世界へ変革することを目指して、

- ①貧困や飢餓、教育などの**社会**の課題
- ②エネルギーや資源の有効活用、働き方や不平等など**経済**の課題
- ③気候変動など地球**環境**の課題

という、3つの側面から捉えることのできる17のゴールを、自分事として、私達が事業活動や普段の生活から、少しずつ未来の子供たちに良い社会、地球を引き継ぐことができるように活動していくものです。

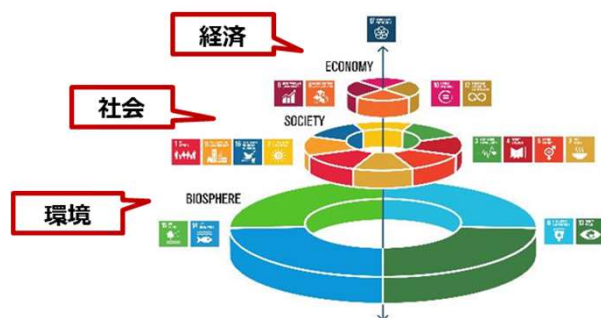


【埼玉県環境部から】

下の図は、SDGsの全体像を理解するための概念図「SDGsウェディングケーキモデル」です。「社会」や「経済」の土台として「環境」があるということを表しており、SDGsは環境を基盤に、持続可能な社会や経済を築くことを目指しています。

SDGsやESG投融資の拡大によって、企業等における環境配慮の取組が、より一層重要になることから、埼玉県環境部では、埼玉県建設業協会様をはじめとする関係団体様や企業様等の環境分野のSDGsの取組を支援しています。

「社会」「経済」の土台となる「環境」分野の取組は、全ての事業活動と密接な関わりがあります。日々の事業活動を見つめなおすことで、まずは「環境」分野から、SDGsの取組を始めてみませんか。



出典：Stockholm Resilience Center

SDGsは私たちに関係するの？

SDGsでは、誰一人取り残さないと前文に記載があります。皆さん個人、法人を含めて関係するものです。中でもSDGsには環境に関する目標がたくさんあり、我々の活動そのものがすでにSDGsに寄与しています。

また、企業においてはESG投融資の関係もあり、環境配慮に対してより一層の取組が求められています。

SDGsは皆さんが自分ごととしてとらえていただきたい活動です。

【取組メリットは？】

①企業イメージの向上…

SDGsへの取組をアピールすることで、多くの人に「この会社は信用できる」、「この会社で働いてみたい」という印象を与え、より、多様性に富んだ人材確保にもつながるなど、企業にとってプラスの効果をもたらします。

②社会の課題への対応…

SDGsには社会が抱えている様々な課題が網羅されていて、今の社会が必要としていることが詰まっています。これらの課題への対応は、経営リスクの回避とともに社会への貢献や地域での信頼獲得にもつながります。

③生存戦略になる…

取引先のニーズの変化や新興国の台頭など、企業の生存競争はますます激しくなっています。今後は、SDGsへの対応がビジネスにおける取引条件になる可能性もあり、持続可能な経営を行う戦略として活用できます。

④新たな事業機会の創出…

取組をきっかけに、地域との連携、新しい取引先や事業パートナーの獲得、新たな事業の創出など、今までになかったイノベーションやパートナーシップを生むことにつながります。

一方で、SDGsの取組のデメリットに大きなものは見当たりません。SDGsに取り組まないことは、人間活動によって生じた課題を世界共通の人類の課題としてとらえないこととなります。各国や各企業が独自にふるまってしまうと世界的な課題が十分に解消されずに逆に世界の状況がますます悪くなってしまいます。ゆくゆくは人間の生活自体が脅かされてしまう、安心・安全で平和な世界とは程遠い状態になってしまいます。

企業においても平和で災害の少ない世界でこそ、豊かなビジネスを展開できます。今後今までとおり利益重視で好きなようにふるまうと、それがかかって経営リスクとして自らに跳ね返ってきてしまいます。このようなことがないためにも取り組む必要が今あるのです。

ここから始める環境SDGs活動

【実はすでに取り組んでいる環境SDGs活動】

建設業界は、建物や社会資本の整備・維持管理に携わる業界です。「誰一人取り残さない」、「持続可能な社会」の実現を目指すうえで、建設業界は大きな役割を担っています。

その一方で、環境に大きな影響をあたえる建設業界において、環境への配慮は不可欠であり、様々な取組が行われています。つまり、各社が行っている事業そのものが「環境SDGs」活動です。

自社では当たり前と行って行っていることをSDGsを通して見直すことで、自社の業務に携わっていることに誇りを持ち、社員の皆さんのやる気につながっていきます。

- ・ 自社が行っている事業活動の意味を深く理解する
- ・ 廃棄物の処理コストを意識して作業している
- ・ ISO14001を取得、研修を受講した

等々



コバトン

【お客様から受託された事業の中でも取り組んでいる】

あらゆる業界において、現在の事業活動の中で環境面の取組は、必要不可欠なものです。環境面に取り組むことは、コストダウンなどに繋がります。下記のように既に取り組んでいる事項もあると思います。

- ①環境に配慮した原材料の調達をしている
- ②事業活動
 - ・ 廃棄物の分別回収
 - ・ 無駄なエネルギーを使わない
 - ・ 働きやすい環境を整える
- ③大気・水・土壌の汚染防止に努めている
- ④省エネ運転の励行、車両の保守点検を定期的に実施する。



目標 3、6、7、11、12、13、14、15の達成に寄与します。

ここから始める環境SDGs活動

【環境SDGsをどのように進めていくか？】

まずは自社で省エネ・省資源という環境視点をもって作業改善、生活改善、生産性向上、稼働率改善を行なっていくと、結果として環境改善と経営改善が一緒に図れます。さらに、お客様に廃棄物の削減、減容、リサイクルを提案し、実行を支援することが環境SDGsをさらに広げます。



コバトン

①SDGsを理解する・・・

まずはこの冊子を社員や協力される皆様と読んでいただき、SDGsとは何かを知ってもらい皆さんで話し合い、考え方の共有を図ります。

②優先課題を決定する・・・

自社の活動内容の棚卸を行い、SDGsと紐づけて説明できるか考えます。

③目標を設定する・・・

何に取り組むか検討し、取組の目的、内容、ゴール、担当部署を決めます。
→取組の行動計画を作成し、社内での理解と協力を得ましょう。

④経営へ統合する・・・

取組を実施し、その結果をみんなで評価しましょう。

⑤報告とコミュニケーションを行う・・・

一連の取組を整理し、外部への発信にも取り組んでみましょう。



評価結果を受けて、②に戻って取組を検討、展開します。

取組のテーマを選ぶ際には1.自社のサービスの強みを十分に活かすことができる、2.気になる関心がある、という理由でも十分ですが、3.自分の子供や孫にはこんな世界で暮らしてほしいという観点でも見つけてみてください。



SDGs委員会

**SDGsは時代の要請です！
ともに頑張りましょう！**

本「取組のすすめ」は埼玉県建設業協会の小川会長とSDGs委員会の協力で作成しました。

建設業界の環境SDGs活動のヒント

【事業活動のポイント】

1. 産廃物の処理

- ✓ 建設発生土や建材端材等のリサイクル資源化
- ✓ 適切な排水処理
- ✓ 廃棄物のリサイクル業者への持ち込み
- ✓ 資材廃棄時の分別促進



廃棄物の処理の取組は、12「生産・消費」、14「海洋資源」、15「陸上資源」につながります。

2. 環境へ配慮した原材料・工具の使用

- ✓ リサイクル材の使用
- ✓ エコマーク対象商品の使用
- ✓ 電動工具の使用
- ✓ バイオエタノール燃料の使用



環境へ配慮した原材料の使用の取組は、11「都市」、12「生産・消費」、15「陸上資源」につながります。

3. 事業内容に応じた取組 (土木)

- ✓ 騒音、振動の防止
- ✓ 生物多様性を守る施工方法の提案



(建築)

- ✓ OMソーラー等を使用した省エネルギーなど建物づくりの提案
- ✓ 県産木材の使用



事業内容に応じた取組は、7「エネルギー」、11「都市」、13「気候変動」、15「陸上資源」につながります。



エコドライブ推進、エコカーの導入の取組は、7「エネルギー」につながります。



コバトン

建設業界の環境SDGs活動のヒント

【事業所のポイント】

1. 3Rを行動の基本に

- ①Reduce (発生抑制)
使用済みのものがゴミとして廃棄されないように配慮すること。
- ②Reuse (再使用)
使用済みのものをゴミとせず再使用すること、使えるものは何度でも使う。
- ③Recycle (再生利用)
ゴミも分別すれば資源となる。
→再資源化する際にエネルギーを使うことも考慮する。



コバトン

2. 分別回収の徹底

- ✓ 廃棄物の分別回収
- ✓ 最終処分量の削減、減量に取り組む



分別回収の徹底の取組は、11「都市」、12「生産・消費」につながります。

3. 省エネ・省資源

- ✓ 照明のLED化
- ✓ ペーパーレス化
- ✓ エアコンの適切な温度設定



省エネ・省資源の取組は、7「エネルギー」、12「生産・消費」、15「陸上資源」につながります。

4. 環境教育

- ✓ SDGsの内容、取組に関する教育
- ✓ 自社の取組を社外へ発信する



皆さんの会社がすでに行っていることが第一歩です！
小さなことから始めていきましょう！



初雁興業株式会社 代表取締役 関根 勇治

トップに信頼されたSDGs推進チームの推進力により 全社で「新しいことにチャレンジしよう」の意欲が醸成。

■ SDGsに取り組むきっかけ

当社は創業以来、土木建築業として、自然環境の回復、生活環境の保全、自然素材の利用を事業に組み込むことが重要と理解し、環境事業にも積極的に取り組んできました。SDGsとの出会いは、新たな取組として今まで行ってきた環境事業の取組への意欲の醸成となり、環境SDGsへつながってきたと考えています。

■ SDGs活動のはじめの一歩

以前からISO14000認証取得等を行っていましたが、CSRはSDGsの具体的方法の一つであると考え、CSRチェックシートを活用して当社の現状を把握しました。その結果、「守るCSR」と比べ、ESG問題への取組となる「伸ばすCSR」が不十分と認識し、まずは埼玉県環境SDGs取組企業宣言書の提出を行いました。

■ SDGs活動の内容

・社会貢献活動

埼玉県「彩の国ロードサポート制度」「川の国応援団」に登録し、住み続けられる街づくりに向け、地域の清掃美化活動を行っています。



・省エネ、気候変動

エコドライブの推進やエコカー購入時の補助金制度を構築し、通勤時の積極的な公共交通や自転車利用には、社内表彰も行っています。また、本社および業務車両のCO₂排出量削減に取り組んでいます。



・生物多様性

池の水を抜かず

水質悪化の原因となる底泥を除去する技術によって、池底を綺麗にし、生態系の保全活動を推進しています。

・環境配慮製品

自然由来の大豆を原料とした、植物性コンクリート塗膜養生剤「SoyShot-20」を開発し、環境保全に貢献しています。また、一般家庭から出たゴミ等の焼却灰を再利用した雑草抑制工法「グリーンコントロールエコシステム」を開発し、環境負荷低減に努めています。



・人材育成・環境学習

社内及び社外講師による研修を実施し、年一度社内にて発表会を開催する事で、従業員への環境教育や啓発活動を行っています。また、インターンシップの受入れを積極的に行い、次世代の担い手育成に取り組んでいます。

■ SDGsを定着させるための施策

事業活動の中で環境事業にも積極的に取り組んできましたが、それまでも全社の取組には推進チームを発足し、トップの意思を受け継いで具体的に進めてきました。SDGsにおいても、推進チームがリーダーシップを発揮し、年一度の全員参加型の研修会において自らが講師となり、取組意欲を醸成させたことで、従業員全員のスキルアップ、啓発活動を行ってきました。



この推進チームは一つの部署に任せることなく、部門横断型のプロジェクトとして多様なメンバーが参加し、会社全体が『SDGs』というものを身近に感じら

れる環境をつくりました。また、現場においても、取組看板を設置し、個々の意識を高めるとともに、現場に携わる方々・地域の方々へも、当社の取組を発信しています。



■ SDGsを取り入れたメリット

当社は、環境・品質の基本理念である「初雁興業株式会社は、人と自然、人と社会が共存する、きれいな地球環境を未来に引き継ぐ企業として『確かな品質、快適な暮らし、安心感』のある建設物を社会に提供するため、たゆまぬ技術の向上に努める」に基づき行動し、地域社会に貢献することを掲げています。

これは、SDGsと同じ方向を目指すものであり、改めて当社が目指すべきことを認識し、従業員一人ひとりが誠実に事業活動に取り組む意欲の醸成につながっています。

■ 他社へのアドバイス

建設業は、経済活動の基盤であるインフラ構築・整備・防災・環境保護など、事業そのものがSDGsに直結する業界です。

SDGsと聞くと、難しく考えがちですが日々行っていることを、まずSDGsに紐づけてみるころから始めてみて下さい。意外にも多くのことが、SDGsに結びついていると発見でき、身近に感じられると思います。

私たち建設業がSDGsを推進することで、経済・社会・環境の課題を改善させる役割を果たすことができるのではないのでしょうか。

■ 会社概要

初雁興業株式会社
本社 埼玉県川越市鯨井1705-2
設立 1947年(昭和22年)
代表取締役 関根 勇治
URL : <http://hazkari.jp/>



柏木建設株式会社 代表取締役 宇津城美奈子

「モノを大切に、環境SDGsとコスト削減を両立する。トップのリーダーシップによって根付いた社内文化。」

■ SDGsに取り組むきっかけ

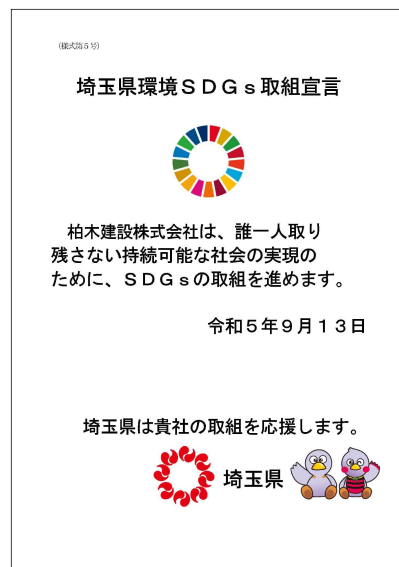
当社では省資源、省エネに関する活動を行っていますが、それらはもともとSDGsを意識して始めたわけではありませんでした。先代社長が「モノを大切にする」ことに対して徹底しており、その意識が社員へ浸透し、会社の文化として定着していきました。

それらの取組が自然と環境SDGsにつながっていると感じています。

■ SDGs活動のはじめの一步

関係部署の代表を集め、当社の取組内容と環境SDGsのゴールとのつながりを整理し、マッピングを行いました。このことによって難しいと感じていたSDGsの取組について考え方が変わり、理解が深まったと感じています。

はじめの一步として、まずは埼玉県環境SDGs取組宣言を行いました。



■ SDGs活動の内容

◆ 事業所での活動

・ペーパーレス化

会議ではタブレットやノートパソコンを使用し、ペーパーレス化を進めています。電子決済システム、勤怠管理システム、受注・発注管理システムを導入し電子化したことで、これらに関する紙の削減につながっています。

・3R

事務服の発注は、使用済みのユニフォームを回収する専門業者へ発注し廃棄を抑制しています。

名刺や封筒は、リサイクル素材を使用。事業所対象リサイクル回収事業「ラ・ミーゴ作戦」に賛同し、紙ごみはリサイクル回収を依頼しています。

・省エネ、省資源

昼休憩時間は適宜消灯し省エネを心がけています。また、LED照明へ入替も順次行っています。

・気候変動

営業車にハイブリット車を順次導入。

・社会貢献

自治会や地域の祭り・行事、またフードバンク活動(与野鈴谷郵便局)への協賛・寄付や、本社前道路の落ち葉拾いを行っています。



◆ 建設現場での活動

・廃棄物

余分なごみの発生を抑制し、適切な分別を実施し、産廃処理業者へ引き渡しています。



・排水処理

現場で発生する排水は、必要に応じて凝集処理を行い、適切に排水処理を行っています。



・環境学習

外部業者の受入教育の際、アイドリングの抑制やごみの分別等の環境に関する教育を行っています。

■ SDGsを定着させるための施策

SDGsを意識して取り組んできたわけではありませんが、省資源や省エネに関する活動は社内文化として従業員に浸透していました。先代社長がこれらについて熱心で、トップのリーダーシップによって社内に根付いています。

■ SDGsを取り入れたメリット

「モノを大切にする」社内意識によって、紙の使用量削減や、電気使用量の削減など、コスト削減につながっています。

また、ペーパーレス化を進めることによって、多くのメリットがありました。紙の管理だと、情報管理のリスク、廃棄に伴う負担・経費が大きかったですが、ペーパーレス化によって、これらの負担等が軽減されました。また、システムの導入によって業務効率化につながり、時間外労働の抑制と、それに伴う電気使用量の削減にもつながっています。

■ 会社概要

柏木建設株式会社
 本社 埼玉県さいたま市中央区
 鈴谷2丁目638番地
 創業 1963年(昭和38年)
 代表取締役 宇津城美奈子
 URL: <http://www.kswg.jp/>